

## 令和元年度職業能力開発論文コンクール「受賞者の声」

受賞者：特別賞（中央職業能力開発協会 会長賞）  
永松 将貴 氏

所属：独立行政法人高齢・障害・求職者雇用支援機構 栃木支部  
関東職業能力開発大学校

テーマ：職業能力開発の実践

論文名：開発課題実習におけるプロジェクトマネジメントの実践

### 受賞者からのメッセージ

このたびは、職業能力開発論文コンクールにおきまして、中央職業能力開発協会 会長賞という大変名誉ある賞を頂き、誠に嬉しく思っております。

関東職業能力開発大学校の職員の皆様をはじめ、日頃よりご指導を頂いております関係各位の皆様に心より感謝申し上げます。

本報告は、筆者らが所属する関東職業能力開発大学校生産システム技術系開発課題実習におけるプロジェクトマネジメントの実践について、平成28年度に取り組んだ「メルシート材」の自動ピッキング装置の開発」を例に報告させていただいたものです。

企業では製品開発や新たな事業展開において、期待した成果を得るためにプロジェクトマネジメントを実践しております。特に近年は顧客の要求が複雑化し、かつ高度化しており、さらに、企業には短期間、低コストで実現することが求められており、プロジェクトのマネジメントの仕方が成果に大きく左右されると言われております。そのため、企業では1つ1つのプロジェクトに対し、立ち上げから終結まで、監視及びコントロールするプロジェクトマネージャーを選任しプロジェクトを遂行しております。

関東職業能力開発大学校の応用課程は、生産現場のリーダーと成り得る人材の養成を目的としており、そのためのカリキュラムである開発課題実習を実施しております。

開発課題実習は、専攻の異なる3科の学生15名程度で一種のプロジェクトチームを結成し、1年間かけて製品の設計から製作・評価までを行う実習となります。関東職業能力開発大学校の開発課題実習は、テーマの多くは企業からの依頼テーマで、依頼企業が顧客、学生がプロジェクトのメンバ、指導陣がプロジェクトの立ち上げから終結までを監視及びコントロールするプロジェクトマネージャーという立場で進めることとなります。

しかし、毎年テーマが異なることや実際の企業が抱えている課題に取り組むため、応用課程で実施している実習の作業内容とは大きな違いが生じます。そのため、開発課題実習は学生主体で取り組む実習ですが、期間内に成果物を完成させるためには、指導陣のマネジメントが重要となります。そこで、関東職業能力開発大学校で実施しております開発課題実習におけるプロジェクトマネジメントの実践について報告させていただきました。

是非、指導員の皆様よりご意見・ご指導を頂ければ幸いです。

今後も開発課題実習を通して、学生に対しより実践的な技術・技能を身につけさせるとともに、地域企業への貢献が行えるよう努力してまいります。